

令和 6 年度 1 学期

府中市標準学力調査
考察資料

小学校

調査目的

●府中市内の小学校児童の学習状況を調査し、学習指導要領に定められた学習内容の定着状況を把握するとともに、今後の学力向上および指導の改善に資する。

調査内容

●調査目的に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成した。

調査対象

- 府中市内の小学校の2・3・4・5・6年生の児童
- 調査対象教科は、国語・算数・理科

◆用語について

正答率

各設問の正答率は、その設問に正答した児童・生徒の割合を示したものである。また、教科総合、領域別、観点別等の正答率は、対象設問中の正答率の平均を表す。

標準スコア

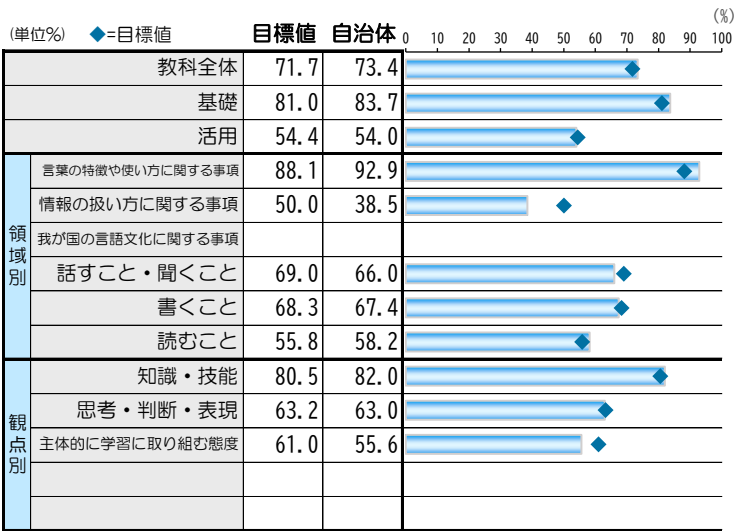
全国平均の正答率を50とした時の換算値。

目標値（目標標準評価方式のみ）

学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、設問ごとに正答できることを期待した児童・生徒の割合。

「主体的に学習に取り組む態度」の定着に課題が残る

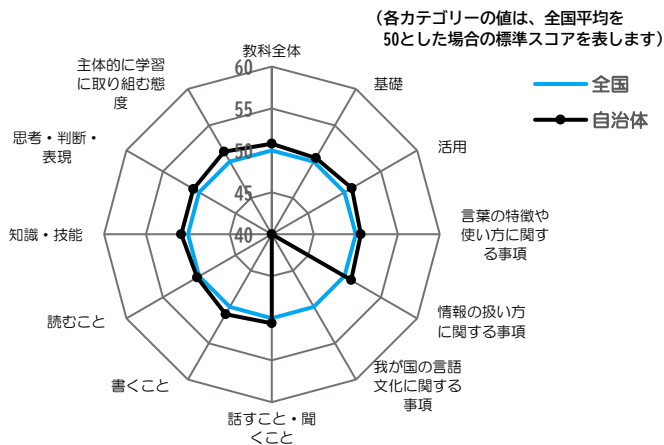
正答率一覧



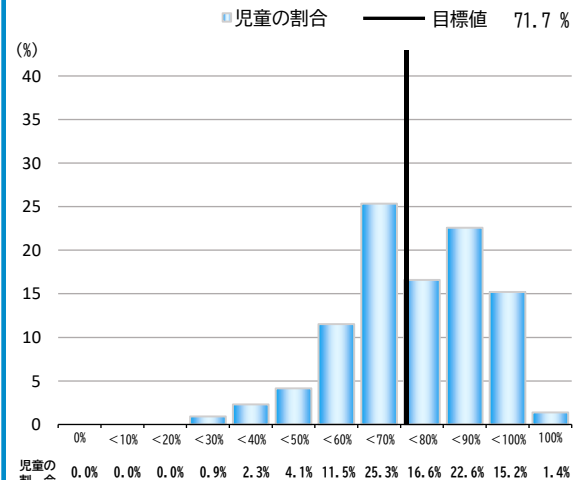
分析 コメント

- 小2国語は、教科全体の正答率が73.4%で、目標値を1.7ポイント上回った。
- 観点別に正答率を見ると、「知識・技能」が82.0%で、目標値を1.5ポイント上回った。一方、「主体的に学習に取り組む態度」が55.6%で、目標値を5.4ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

見たことをもとにはっぴようする

大問6(2)

<ねらい>

情報と情報との関係について理解し、相手に伝えるように、経験したことに基づいて話している。

目標値 40.0% 正答率 14.7% 差 ▲ 25.3 ポイント

指導のポイント

本問では、まず「ひろとさん」の言葉を基に、【はっぴようのれんしゅう】から、「みずきさん」が水の中のカピバラにびっくりしたことを確認する。どのようなことにびっくりしたのかについては、【みずきさんのメモ】を見れば、「おもったよりはやくおよく」ことであることが分かる。ここでは、三つの資料の情報を基に考える必要があるが、複数の資料からの情報の関係を考えることは、児童にとっては難しい場合がある。あまり意識せずに分かる児童もいるが、情報と情報との関係について正確に理解させるためには、授業の中で丁寧に指導していきたい。

文しょうをかく

大問7

<ねらい>

文を1文以上書いている。

目標値 85.0% 正答率 77.0% 差 ▲ 8.0 ポイント

指導のポイント

1文でもよいので、文を書くことができるかを見る問題である。国語の時間に限らず、日頃から書く場面を設け、低学年のうちから書くことに抵抗がない児童を育てることが大切である。例えば、楽しかったこと、面白かったことなど、児童が口頭で話した内容をきちんとした文にして書かせたり、目の前で起きていることを文で表現させたりする指導が有効である。

小2 算数

「思考・判断・表現」の定着に課題が残る

正答率一覧

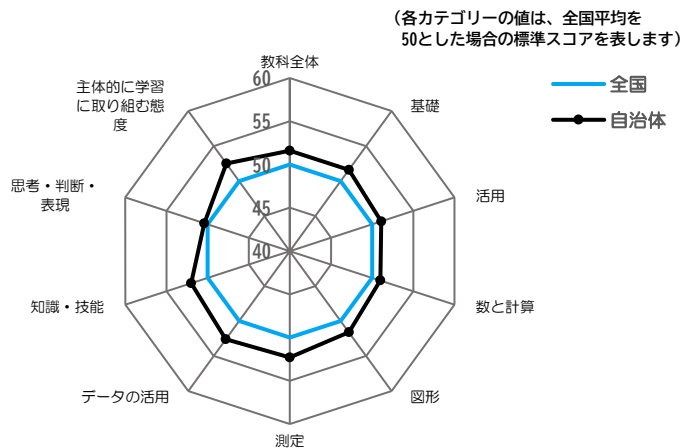
(単位%) ◆=目標値		目標値	自治体	
教科全体		75.8	78.8	
基礎		80.3	83.8	
活用		57.1	58.3	
領域別	数と計算	75.9	77.9	
	図形	70.0	75.6	
	測定	78.8	86.4	
	データの活用	75.0	80.0	
観点別	知識・技能	80.5	85.5	
	思考・判断・表現	59.4	55.6	
	主体的に学習に取り組む態度	66.4	69.2	

分析 コメント

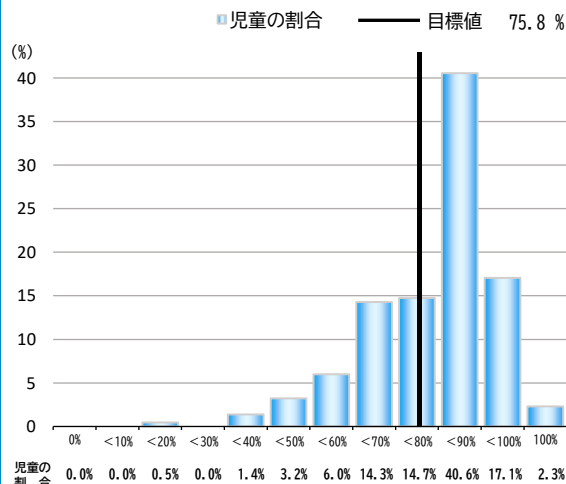
小2算数は、教科全体の正答率が78.8%で、目標値を3.0ポイント上回った。

観点別に正答率を見ると、「知識・技能」が85.5%で、目標値を5.0ポイント上回った。一方、「思考・判断・表現」が55.6%で、目標値を3.8ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

3つのかずのけいさん

大問9(2)しき

<ねらい>

順序数と集合数の文章問題を解くために3口の加法の立式をしている。

目標値 55.0% 正答率 35.9% 差 ▲ 19.1 ポイント

指導のポイント

「前に (から) 4人」は集合数、「前から4番目」は順序数である。日本語の表現だけでは集合数なのか、順序数なのか十分に理解できない児童もいる。そこで、学級の実態によっては、実際に問題場面と同じように児童を並ばせて、実感させることが必要な場合もある。また、並んでいる様子を図に表し、言葉との関連が分かるようにすると、理解できるようになる。さらに、「前から4人出てきてください」「前から4番目の人は出てきてください」など、学校生活の中で、集合数と順序数を使い分けて指示を出すことも大切である。

たしざん

大問19(1)

<ねらい>

必要な情報を読み取って、合併の場面について答えを求めることができる。

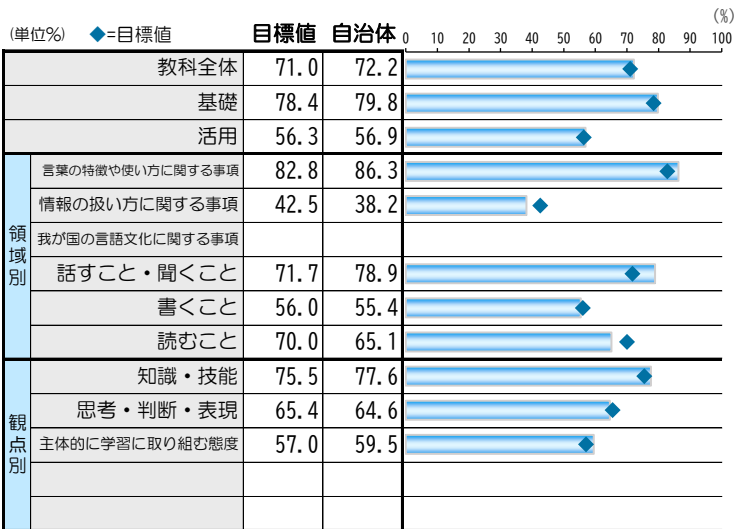
目標値 30.0% 正答率 17.1% 差 ▲ 12.9 ポイント

指導のポイント

このじんとりあそびのルールは、じゃんけんで勝つと■を2つ、あいこで■を1つぬることができるが、負けたらぬることができない、多く■をとった方が勝ちというものである。ルールを正しく理解するには、ルールを読むだけではなく、実際にゲームをすることが大切である。じんとりあそびのよさは、ぬった■の数で陣地の広さが比べられることにある。そして、じゃんけんに勝てば■を2つ、あいこで■が1つ増えることから、たし算の場面であることを、ゲームを通して分かるようにしていきたい。

「思考・判断・表現」の定着に課題が残る

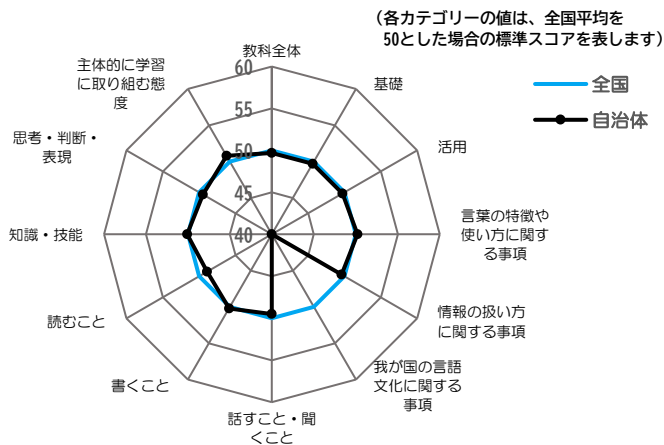
正答率一覧



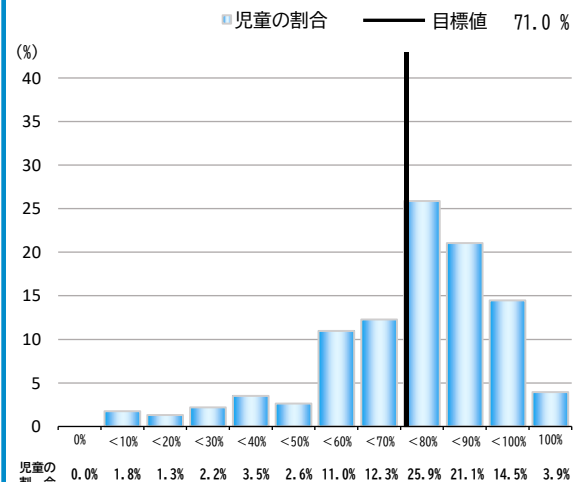
分析 コメント

- 小3国語は、教科全体の正答率が72.2%で、目標値を1.2ポイント上回った。
- 観点別に正答率を見ると、「主体的に学習に取り組む態度」が59.5%で、目標値を2.5ポイント上回った。一方、「思考・判断・表現」が64.6%で、目標値を0.8ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

せつ明文を読みとる

大問5(2)

<ねらい>

事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。

目標値 70.0% 正答率 53.9% 差 ▲ 16.1 ポイント

指導のポイント

説明的な文章の読み取りでは、どのような事柄が書かれているのかを順に読み取っていき、全体として何が書かれているのかを理解することが基本となる。第3学年では、段落相互の関係に着目しながら、文章の構造や内容を把握するといった指導事項が出てくる。そこにつなげていくためにも、何がどのような順序で書かれているのかを、確実に捉えられるようにしておきたい。

作り方をせつ明する文しょうを書く

大問6(2)

<ねらい>

情報と情報との関係について理解し、語と語や文と文との続き方に注意しながら、文章を書いている。

目標値 40.0% 正答率 25.4% 差 ▲ 14.6 ポイント

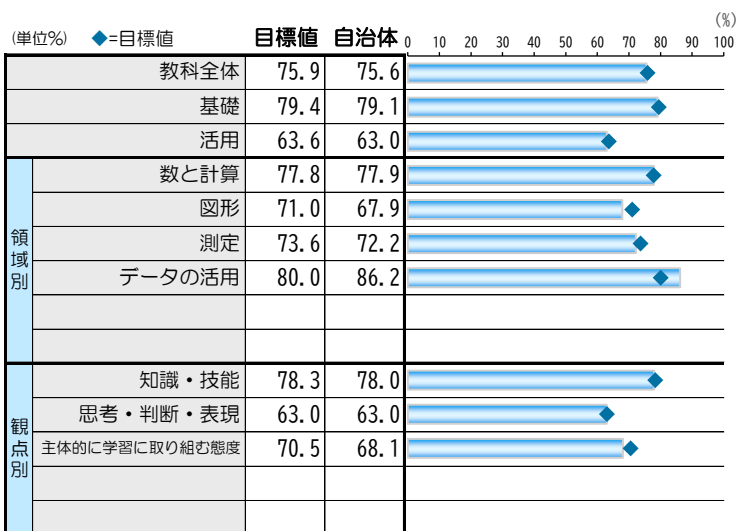
指導のポイント

本問の【文しょう】には二つの紙コップが出てくるが、「作り方」の説明に、「わゴムをつけた紙コップ」を直接表現する言葉は出てこない。また、設問の「のぞみさん」の発言でも、「わゴムをつけたほう」という表現になっている。こうしたちょっとした言葉の使い方に難しさを感じる児童もいる。【文しょう】を最後まで丁寧に読んで、「あそび方」に出てくる「わゴムをつけた紙コップ」という言葉を使えばよいことに気付かせたい。情報と情報との関係について理解する際には、言葉が言い換えられているところにも注意させる必要がある。

小3 算数

「主体的に学習に取り組む態度」の定着に課題が残る

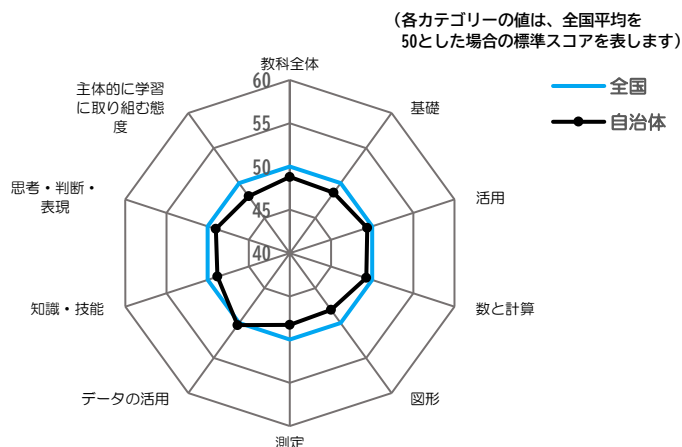
正答率一覧



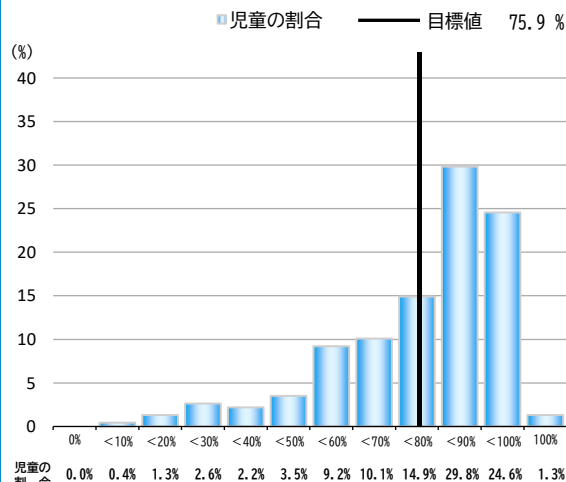
分析 コメント

- 小3算数は、教科全体の正答率が75.6%
- で、目標値を0.3ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、「思考・判断・表現」が63.0%で、目標値と同値だった。
- 一方、「主体的に学習に取り組む態度」が68.1%で、目標値を2.4ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

長さ・かさ

大問15(3)

<ねらい>

長さの単位の間接関係を理解し、大小を判断することができる。

目標値 60.0% 正答率 46.1% 差 ▲ 13.9 ポイント

指導のポイント

長さなどの、量と測定の学習においては、基本単位の量感をもたせることが大切である。例えば、1mならば自分の身長このあたりになる、1cmは爪の長さくらい、などと自分の体の部分を使って表せるとよい。量感をもたせることによって、示された長さが大体どれくらいであるか、推測することができるようになる。いたずらに単位の換算のスキルを高めるのではなく、量感を育てる指導を大切にしたい。

はこの形

大問18(1)

<ねらい>

直方体を作るときに必要な面の形と数を理解している。

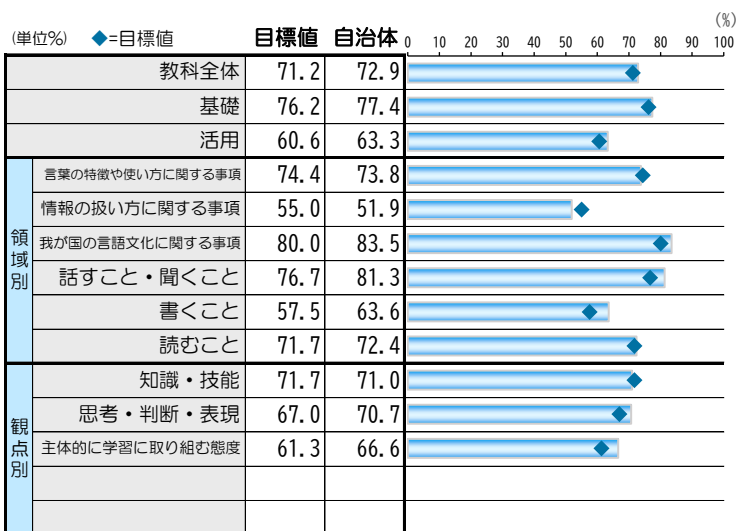
目標値 40.0% 正答率 28.9% 差 ▲ 11.1 ポイント

指導のポイント

身近にある直方体を十分に観察させ、面が6つあることや、同じ形の長方形の面が2つずつ3組又は同じ形の長方形の面が4つと正方形の面が2つあることなどを理解できるように指導したい。また、同じ長方形でも、縦に置いた場合と横に置いた場合とでは、違う長方形であると判断してしまう児童もいる。図形指導に当たっては、「ずらす」「回す」「裏返す」の操作を十分に行うことが大切である。

「知識・技能」の定着に課題が残る

正答率一覧

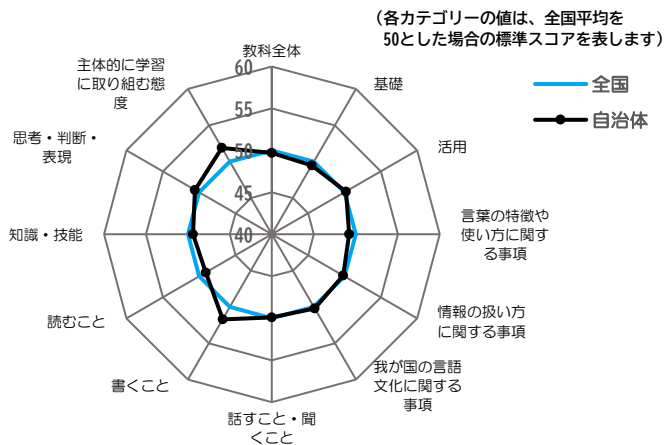


分析 コメント

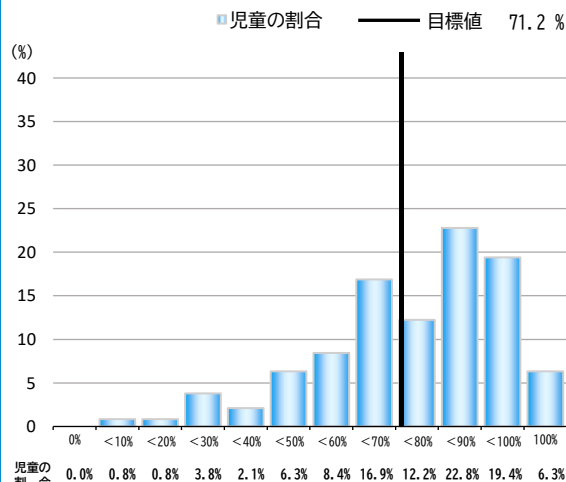
小4 国語は、教科全体の正答率が72.9%で、目標値を1.7ポイント上回った。

観点別に正答率を見ると、「主体的に学習に取り組む態度」が66.6%で、目標値を5.3ポイント上回った。一方、「知識・技能」が71.0%で、目標値を0.7ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

漢字を読む

大問2(1)①

<ねらい>

第3学年に配当されている漢字を正しく読んでいる。

目標値 90.0% 正答率 75.1% 差 ▲ 14.9 ポイント

指導のポイント

漢字の読み書きの出来は使用頻度に左右されるため、年間を通して意識して指導する必要がある。漢字の読みについては、教科書の音読を通して新出漢字の読みを確かめさせたり、漢字を使って短文作りをさせたりして、習熟を図りたい。また、読み方の分からない漢字が出てきた場合には、そのままにせず、こまめに辞書を引く習慣を身に付けさせることが大切である。

言葉の学習

大問3(1)

<ねらい>

主語と述語との関係について理解している。

目標値 70.0% 正答率 59.1% 差 ▲ 10.9 ポイント

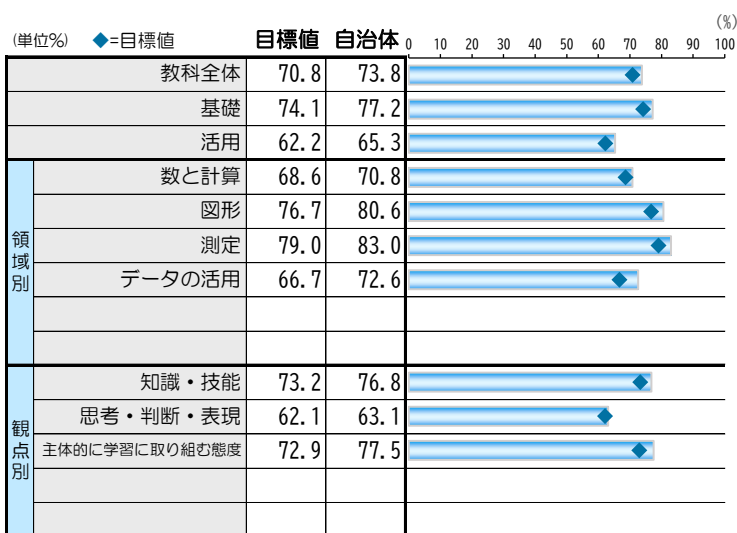
指導のポイント

主語には、「は」や「が」の助詞が付くことが多いが、「も」「こそ」「だって」などが付く場合もある。「は」や「が」だけを押さえさせるのではなく、述語との関係で考えさせたい。また、述語は、主語と述語の倒置などの特別な場合を除き、文末にくる。「どうする」「どんなだ」「なんだ」といった文の意味を決定付けるものであり、そのことを押さえおけば、文の中で述語を見つけやすい。

小4 算数

「主体的に学習に取り組む態度」が良好である

正答率一覧

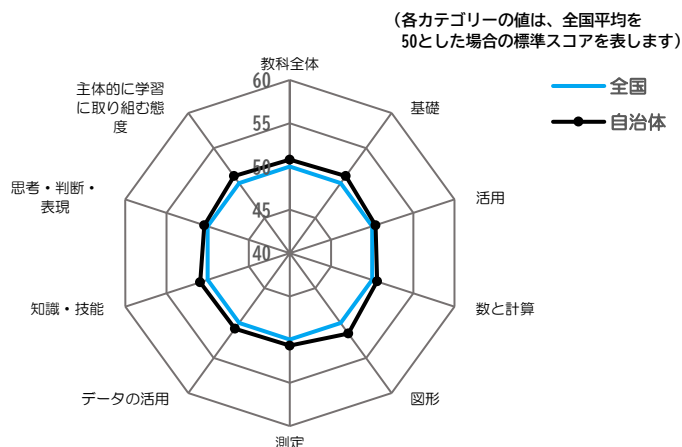


分析 コメント

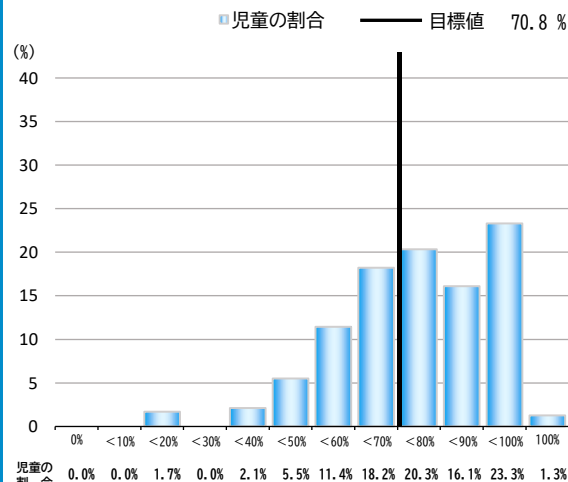
小4算数は、教科全体の正答率が73.8%で、目標値を3.0ポイント上回った。

観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に達している。中でも、「主体的に学習に取り組む態度」が77.5%で、目標値を4.6ポイント上回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

わり算

大問5(1)

<ねらい>

文章問題を解くために除法の立式をしている。

目標値 75.0% 正答率 61.0% 差 ▲ 14.0 ポイント

指導のポイント

本問は、入り口から馬までの道のりをもとにする、入り口からやぎまでの道のりがいくつに当たるかを求める式を書くもので、包含除と同じ構造になっている。この場合の、いくつに当たる数が倍であることを押さえさせたい。問題文から、もとにするのは馬までの道のりなのかやぎまでの道のりなのかを読み取る必要がある。テープ図や数直線などのモデル図に表し、問題の構造や数量の関係を理解させることが大切である。

円と球・三角形

大問10(1)

<ねらい>

円の半径について理解している。

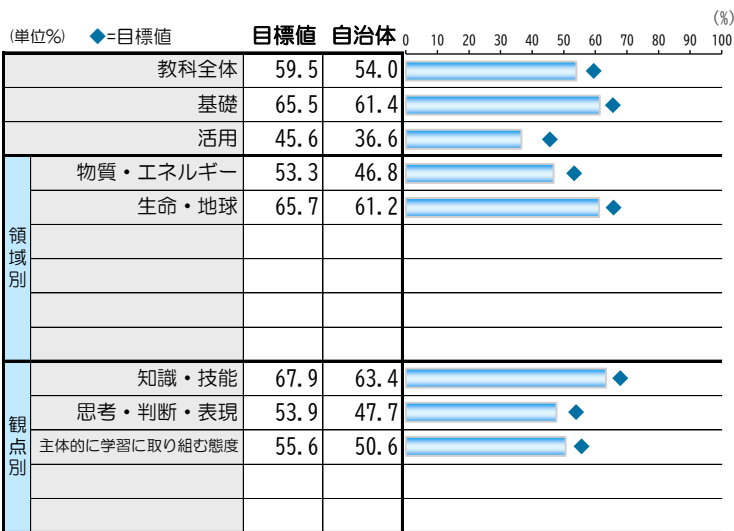
目標値 80.0% 正答率 76.3% 差 ▲ 3.7 ポイント

指導のポイント

円の図の中に示された直線の中から、半径を表しているものを選ぶ問題である。直径と半径の区別が付いていない誤答が見られた。直径、半径という用語については、「直」や「半」など、使われている漢字にも着目させ、半径の「半」という漢字が何の半分を意味しているのかを理解させる必要がある。

「思考・判断・表現」の定着に課題が残る

正答率一覧

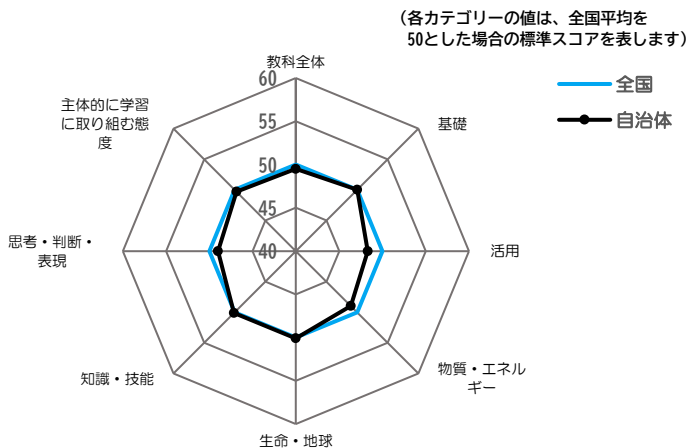


分析 コメント

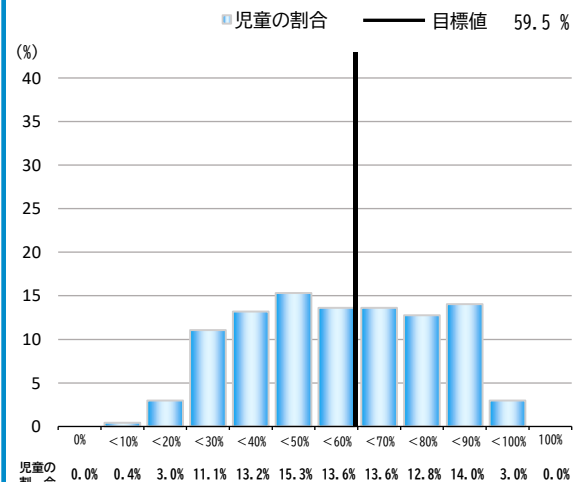
小4 理科は、教科全体の正答率が54.0%で、目標値を5.5ポイント下回った。

観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に届かなかった。中でも、「思考・判断・表現」が47.7%で、目標値を6.2ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

植物の育ち方

大問2(3)

<ねらい> ホウセンカのからだのつくりをもとに、ネギのからだのつくりを推測できる。

目標値 30.0% 正答率 7.7% 差 ▲ 22.3 ポイント

指導のポイント 植物の体が、根、茎及び葉からできていることを理解しているかを問う問題である。それぞれのつくりの箇所を指摘できないのは、植物を植えたり、観察したりする経験が不足しているためであると考えられる。児童が植物に触れる機会をできる限り増やすとともに、植物の成長の様子を絵や言葉で記録させることが大切である。

じしゃくのせいしつ

大問10(2)

<ねらい> 実験の方法から、考えの根拠となる磁石の性質を説明できる。

目標値 30.0% 正答率 8.5% 差 ▲ 21.5 ポイント

指導のポイント 「磁石であれば方位磁針の針が引き付けられる。逆に、方位磁針の針が引き付けられたならば磁石である」と考える児童も少なくない。本問のかのんさんは、この点について「逆は真ならず」ということを言っており、論理的思考力が問われる問題である。図の実験が理解できれば、これがヒントとなり、鉄が磁化されることを思い出して、正答を導くことができると考えられる。磁化される現象を経験しておく、このような問題を解く手がかりになるので、磁石や鉄を使って個人で自由に実験をする時間を確保することが大切である。

「知識・技能」の定着に課題が残る

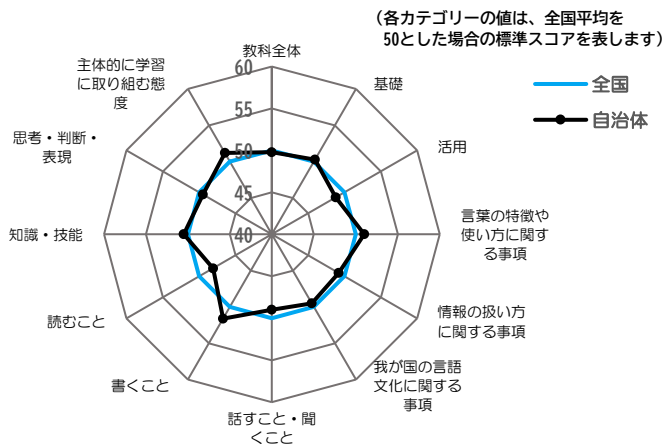
正答率一覧

(単位%) ◆=目標値		目標値	自治体	(%)
教科全体		64.4	64.4	
基礎		66.4	65.3	
活用		60.0	62.4	
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	67.5	67.4	
	情報の扱い方に関する事項	55.0	49.6	
	我が国の言語文化に関する事項	70.0	72.5	
	話すこと・聞くこと	63.0	63.8	
	書くこと	57.5	68.3	
	読むこと	60.8	55.9	
	知識・技能	65.8	65.0	
観点別	思考・判断・表現	60.7	61.9	
	主体的に学習に取り組む態度	58.0	65.1	

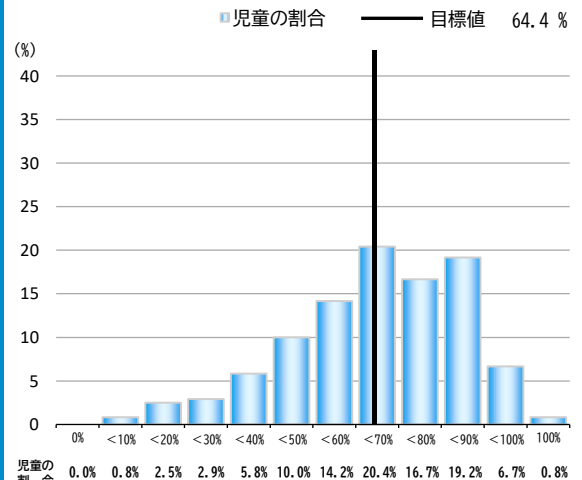
分析 コメント

- 小5国語は、教科全体の正答率が64.4%
- で、目標値と同値だった。
- 観点別に正答率を見ると、「主体的に学習に取り組む態度」が65.1%で、目標値を7.1ポイント上回った。一方、「知識・技能」が65.0%で、目標値を0.8ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

漢字を書く

大問2(2)①

<ねらい> 第4学年に配当されている漢字を正しく書いている。

目標値 60.0% 正答率 41.7% 差 ▲ 18.3 ポイント

指導のポイント

日常よく目にする漢字であっても、いざ書くとなると書けないことが多い。国語科の漢字の指導において、日頃から小テストなどを通して習熟を図るとともに、他教科の書く活動などの中でも、既習漢字を使うように指導することが大切である。

スピーチをする

大問6(1)

<ねらい> 話の中心が明確になるよう話の構成を考えている。

目標値 65.0% 正答率 52.5% 差 ▲ 12.5 ポイント

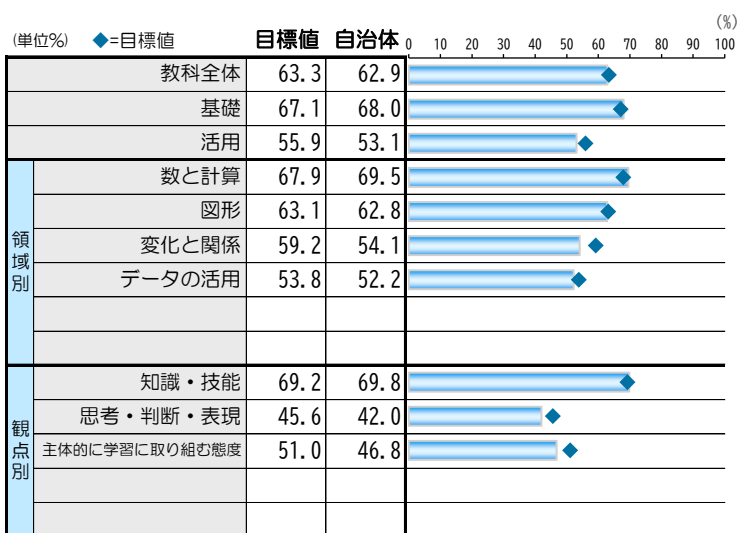
指導のポイント

スピーチでは、出だしの部分で聞き手に興味を抱かせ、話に引き込むような工夫をすることが効果的である。そうした点から、スピーチの最初の部分を検討してみる。まず、「野生のメダカがぜつめつするおそれがあることを知っていますか」というように問いを投げかけることにより、聞き手に興味をもたせている。さらに続けて、この問題を取り上げた動機について述べることで、話し手の問題の所在が分かるようにしている。これら以外にも、スピーチの出だしの部分で聞き手を引き付けるさまざまな工夫について、理解を深めさせたい。

小5 算数

「主体的に学習に取り組む態度」の定着に課題が残る

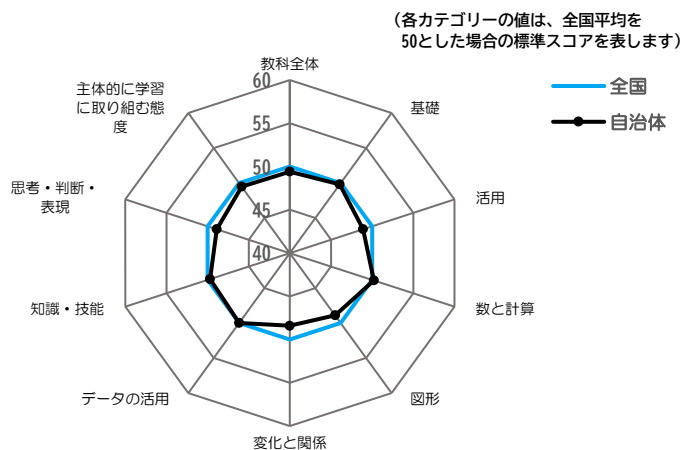
正答率一覧



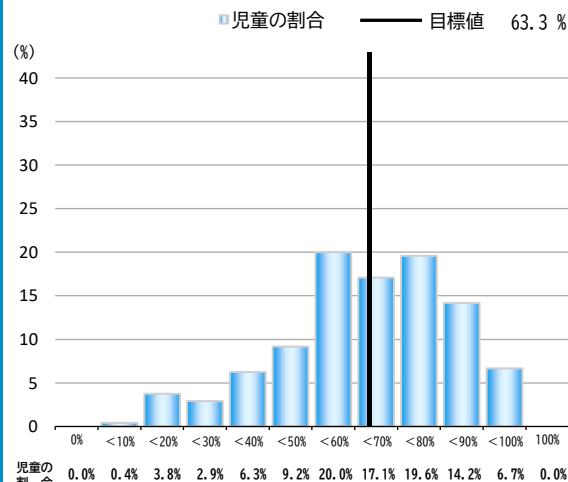
分析 コメント

- 小5算数は、教科全体の正答率が62.9%で、目標値を0.4ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、「知識・技能」が69.8%で、目標値を0.6ポイント上回った。一方、「主体的に学習に取り組む態度」が46.8%で、目標値を4.2ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

折れ線グラフと表

大問14(2)

<ねらい> 1目盛りの大きさが違う2つのグラフをもとに、間違いを指摘している。

目標値 30.0% 正答率 14.2% 差 ▲ 15.8 ポイント

指導のポイント グラフは1目盛りの大きさによって、見た目が全く違うことがある。特に折れ線グラフは、途中を波線で省略することがあるので注意したい。本問の2つの折れ線グラフでは、見た目はグアムのグラフの方が変化が大きいのに見える。しかし、1目盛りの大きさに着目すると、東京は1目盛り1度であるのに対し、グアムは1目盛り0.1度と10分の1の大きさである。東京の変化の幅は19～15(度)で4度、グアムの変化の幅は28.1～27.4(度)で0.7度であるので、東京よりグアムの方が変わり方は小さい。1目盛りの大きさに着目して、批判的にグラフを読み取る力を付けさせたい。

いろいろな形

大問12(3)

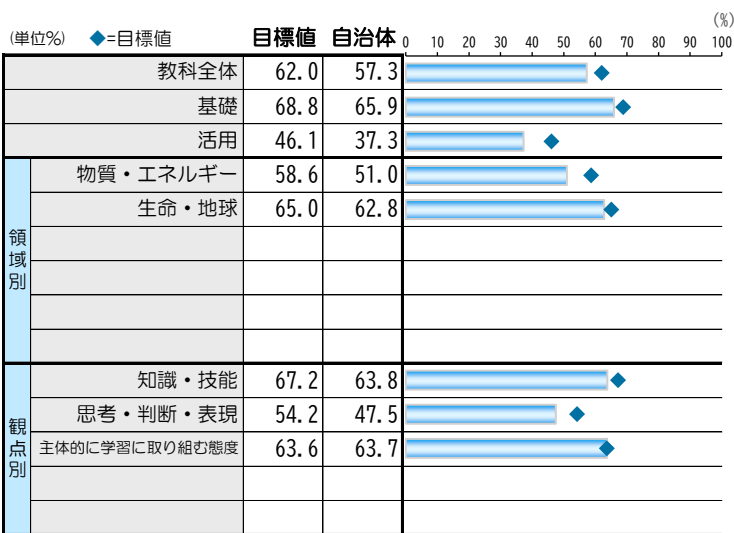
<ねらい> 平行四辺形の作図ができる。

目標値 50.0% 正答率 35.0% 差 ▲ 15.0 ポイント

指導のポイント 平行四辺形は、1組の三角定規と分度器で作図する方法と、コンパスとものさしで作図する方法がある。前者は、平行四辺形が向かい合った2組の辺がそれぞれ平行であることを踏まえた作図方法で、後者は、平行四辺形の向かい合う辺の長さが等しいことを踏まえた作図方法である。このように、平行四辺形の意味や性質の何者を利用するかで、作図の方法は何通りもある。どの性質を利用して作図しようとしているのか、根拠をもって作図できるようにすることが大切である。

「思考・判断・表現」の定着に課題が残る

正答率一覧

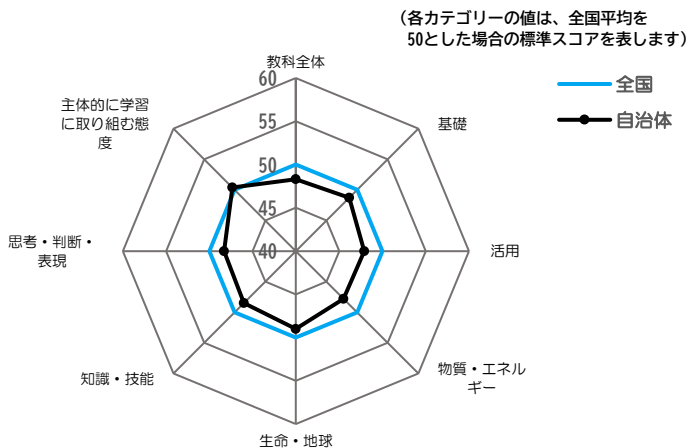


分析 コメント

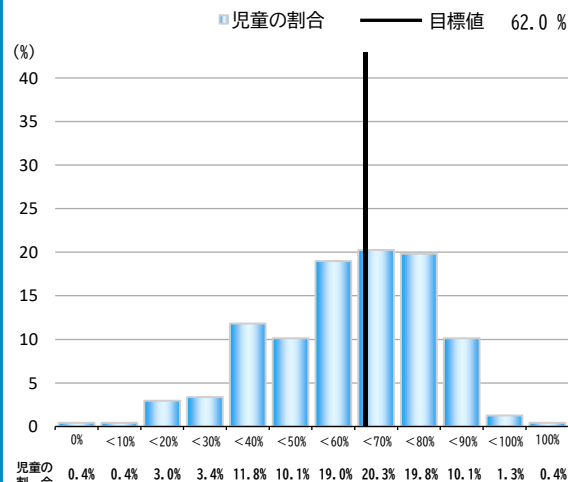
小5 理科は、教科全体の正答率が57.3%で、目標値を4.7ポイント下回った。

観点別に正答率を見ると、「主体的に学習に取り組む態度」が63.7%で、目標値を0.1ポイント上回った。一方、「思考・判断・表現」が47.5%で、目標値を6.7ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

水のすがた

大問8(2)

<ねらい>

グラフから、水がこおり始めてからすべて氷になるまでの時間を読み取ることができる。

目標値 55.0% 正答率 33.8% 差 ▲ 21.2 ポイント

指導のポイント

試験管などに入れた水を凍らせる実験を通して、「水は冷やされると氷になる」「水は約0℃で凍り始め、全て氷になるまで0℃のままである」「水が凍る前後で水面の位置が上昇したことから、水が氷になるときには、体積が大きくなる」ことを理解させ、実験結果を科学的な言葉を使ってまとめさせるとよい。水以外の物質は、液体から固体になると体積が小さくなるので、水が氷になるとき、体積が増加するのは特殊な例であることを説明し、自然現象への関心を高められるとよい。

自然の中の水

大問11(3)

<ねらい>

水槽の外側についた水滴が、結露によってできたことを指摘できる。

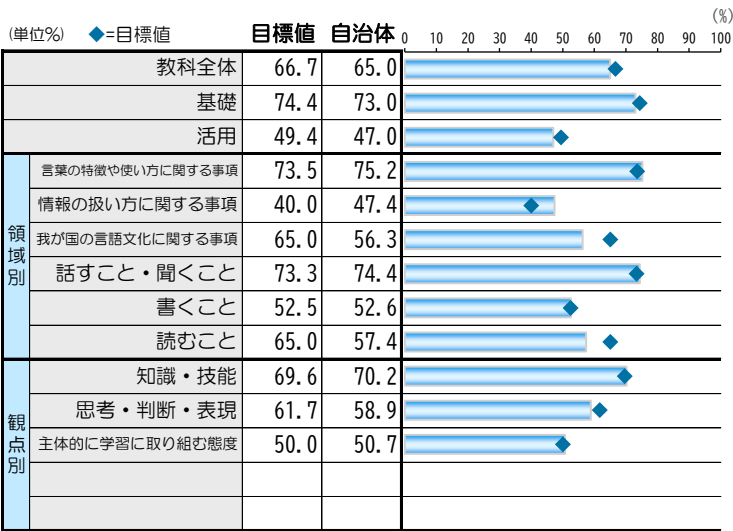
目標値 35.0% 正答率 17.7% 差 ▲ 17.3 ポイント

指導のポイント

氷水を入れたビーカーの表面には水滴が付く、常温の水を入れたビーカーの表面には付かないことから、空気中の水蒸気についてどのようなことがいえるのか、児童に発表させるとよい。その際、ビーカーの中の水の量が変わっていないことを確認させて、中の水がビーカーの表面に染み出たわけではないことを理解させる必要がある。氷水を入れたビーカーの表面に水滴が付く理由を、自分の言葉でまとめさせることが有効である。

「思考・判断・表現」の定着に課題が残る

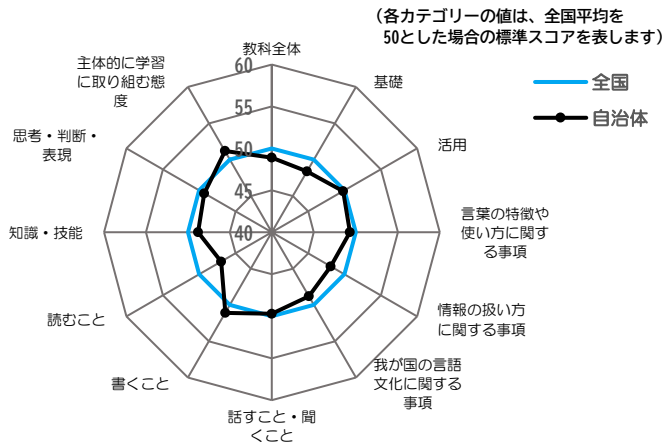
正答率一覧



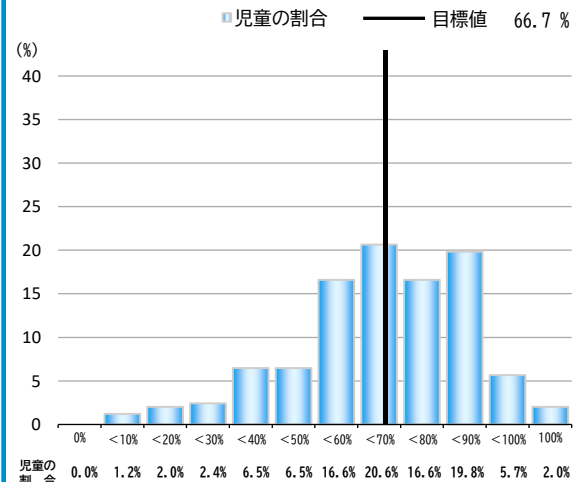
分析 コメント

- 小6国語は、教科全体の正答率が65.0%で、目標値を1.7ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、「主体的に学習に取り組む態度」が50.7%で、目標値を0.7ポイント上回った。一方、「思考・判断・表現」が58.9%で、目標値を2.8ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

物語の内容を読み取る

大問4(1)

<ねらい> 登場人物の心情について、描写を基に捉えている。

目標値 60.0% 正答率 35.6% 差 ▲ 24.4 ポイント

指導のポイント

文学的な文章の読み取りの問題では、児童はどうしても設問箇所だけに注目してしまい、場面の様子や登場人物の人間関係など、文章全体の流れをしっかりと理解しないまま解こうとする傾向がある。まずは、文章全体としてどのような話なのかを理解させ、その上で細部について考えるような読み方を身に付けさせる必要がある。授業においては、文章の全体と細部の関係を意識して指導することが大切である。

言葉の学習

大問3(3)

<ねらい> 漢字の由来について理解している。

目標値 60.0% 正答率 47.8% 差 ▲ 12.2 ポイント

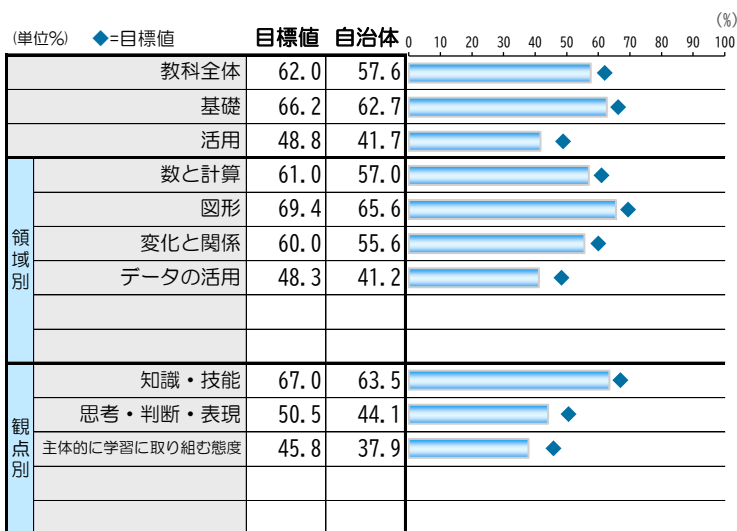
指導のポイント

漢字の成り立ちにはいくつかの種類があることを理解していない児童がいる。一つ一つの漢字に意味があることを、児童が理解できるようにさせるためには、同じ成り立ちの漢字を集めたり、それらをクイズにしたりするなど、楽しめる要素を取り入れた活動を通して学習させる工夫が大切である。

小6算数

「主体的に学習に取り組む態度」の定着に課題が残る

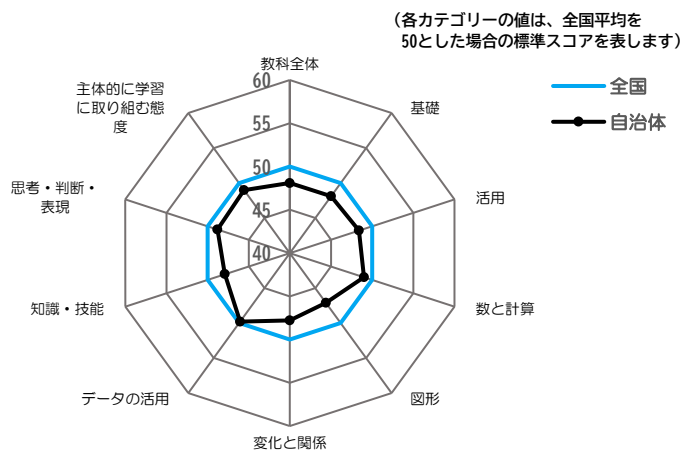
正答率一覧



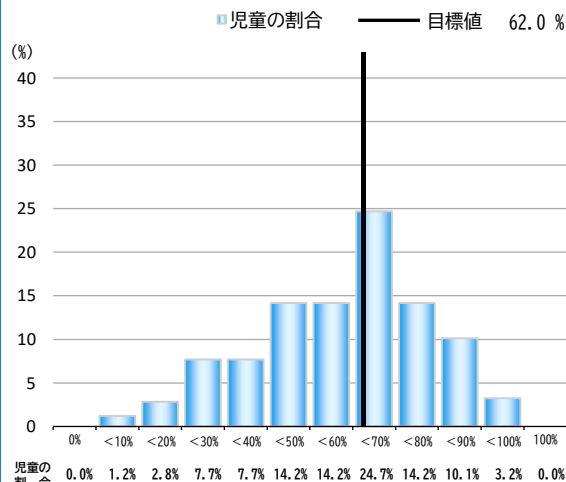
分析コメント

- 小6算数は、教科全体の正答率が57.6%で、目標値を4.4ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に届かなかった。中でも、「主体的に学習に取り組む態度」が37.9%で、目標値を7.9ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

円グラフや帯グラフ・平均

大問18(3)

<ねらい>

与えられた情報を読み取り、基準量と割合から求めた比較量を比べ、発言が正しいかどうかを判断し、そのわけを説明している。

目標値 30.0% 正答率 8.5% 差 ▲ 21.5 ポイント

指導のポイント

しょうさんは、日本が、65才以上の人口の実数が4か国の中で一番多いと言っているのを、それを確かめるには、4か国の65才以上の人口を求めて比べる必要がある。その際、人口が多ければ、割合が小さくても実数は大きくなることもあるので、はじめに人口の多いインドや中国の実数を求めてみるとよい。全部の国の65才以上の人口を求めなくても、基準量と割合の関係から比較量を予想する見方も身に付けておくと、情報の読み取りには有効である。

小数の計算

大問4(2)

<ねらい>

小数の除法の文章問題に合った式を選んでいる。

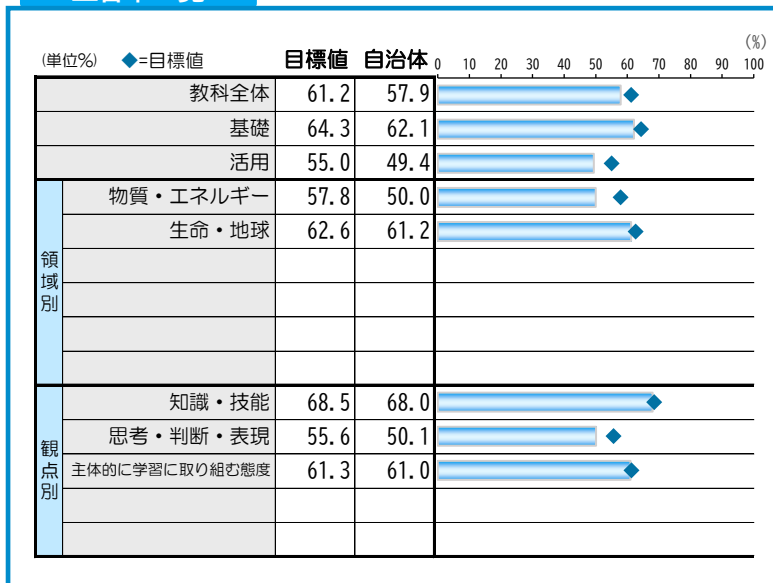
目標値 65.0% 正答率 45.3% 差 ▲ 19.7 ポイント

指導のポイント

誤答の多くは、除法ではなく乗法の式を選んでしまったものや、除数と被除数を取り違え、鉄のぼう1kgの長さを求める式を選んでしまったものである。後者は、単純に問題文の数値を出てきた順番でわってしまったものと考えられる。小数の除法は、2つの数量のうち、どちらをどちらでわるのかで迷いやすい。数量の関係を数直線に表し、除数と被除数を正しく判断できるように指導することが大切である。

「思考・判断・表現」の定着に課題が残る

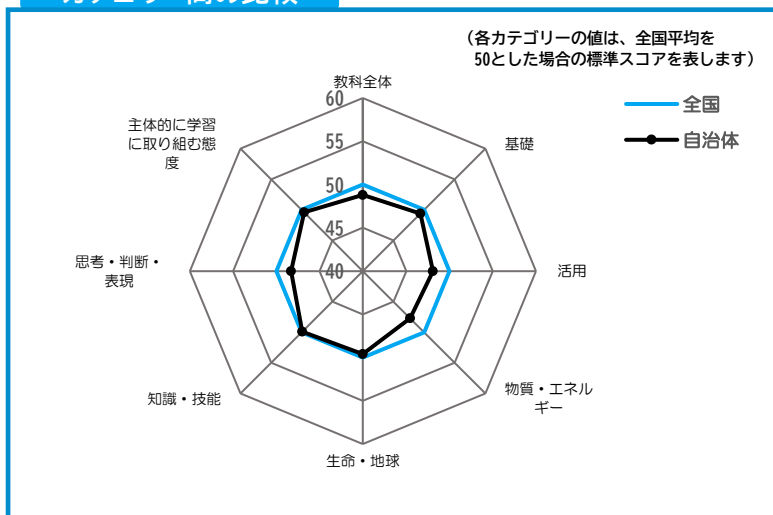
正答率一覧

分析
コメント

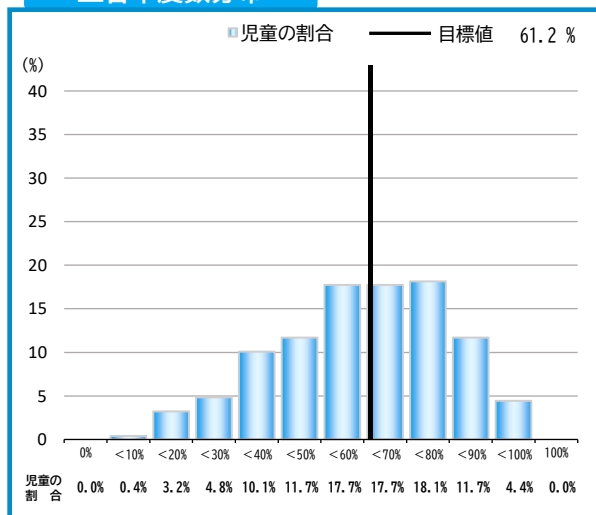
小6理科は、教科全体の正答率が57.9%で、目標値を3.3ポイント下回った。

観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に届かなかった。中でも、「思考・判断・表現」が50.1%で、目標値を5.5ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

電流のはたらき

大問8(1)

<ねらい>

ごみ処理場での電磁石の利用方法から、電磁石の性質を指摘できる。

目標値 80.0% 正答率 56.9% 差 ▲ 23.1 ポイント

指導のポイント

電磁石を使った魚釣りゲームは、遊び感覚で取り組むことができる活動なので、児童の興味を高めやすい。1分間でどれだけ釣れるかを競わせたり、魚の重さによって得点を変えたりして工夫すると、より意欲的に活動に取り組ませることができる。その際、スイッチを入れたり切ったりすることや、電磁石が鉄の釘を引き付けることと、第3学年での電気や磁石の学習とを結び付けて、おもちゃの仕組みに目を向けさせるようにする。このような学習を通して、十分に電磁石と関わらせることにより、理解を定着させていきたい。

人のたんじょう

大問2(1)

<ねらい>

胎児は、子宮で育つことを理解している。

目標値 80.0% 正答率 61.3% 差 ▲ 18.7 ポイント

指導のポイント

子宮の中での子供の育ち方を調べる学習では、資料で調べたことのもる写しになってしまう場合がある。この場合、調べたことの要点をまとめて記録するように指導する。また、感じたことや考えたことも記録させることが大切である。発表用にまとめる際には、図やイラストをかいて、その中に説明を加えたり、表やグラフに表したりして、他の児童にも分かりやすいように工夫することを指導するとよい。